

国 語

(現代文B)

発行者の番号略	教科書の記号番	判 型	総ページ数	検定済年
117 明治	現 B 3 1 3	A5	422	平成 2 5 年
117 明治	現 B 3 1 4	A5	374	
183 第一	現 B 3 1 7	A5	466	
212 桐原	現 B 3 1 9	A5	422	
212 桐原	現 B 3 2 0	A5	406	
2 東書	現 B 3 2 1	A5	416	平成 2 9 年
2 東書	現 B 3 2 2	A5	492	
15 三省堂	現 B 3 2 3	A5	440	
15 三省堂	現 B 3 2 4	A5	408	
15 三省堂	現 B 3 2 5	A5	372	
17 教出	現 B 3 2 6	A5	496	
17 教出	現 B 3 2 7	A5	452	
17 教出	現 B 3 2 8	A5	402	
50 大修館	現 B 3 2 9	A5	296	
	現 B 3 3 0	A5	272	
50 大修館	現 B 3 3 1	A5	472	
50 大修館	現 B 3 3 2	A5	342	
104 数研	現 B 3 3 3	A5	438	
104 数研	現 B 3 3 4	A5	390	
117 明治	現 B 3 3 5	A5	422	
117 明治	現 B 3 3 6	A5	374	
143 筑摩	現 B 3 3 7	A5	480	
143 筑摩	現 B 3 3 8	A5	480	
183 第一	現 B 3 3 9	A5	490	
183 第一	現 B 3 4 0	A5	408	
212 桐原	現 B 3 4 1	A5	454	

※総ページ数は、目録に記載されている数

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

現代文B		冊数	26冊
発行者の略称・ 教科書の番号	明治313 明治314 第一317 桐原319 桐原320 東書321 東書322 三省堂323 三省堂324 三省堂325 教出326 教出327 教出328 大修館329 大修館330 大修館331 大修館332 数研333 数研334 明治335 明治336 筑摩337 筑摩338 第一339 第一340 桐原341		

2 学習指導要領における教科・科目の目標等

【国語の目標】

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

【現代文Bの目標】

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

【現代文Bの内容及び内容の取扱い】

「内容」の抜粋	「内容の取扱い」の抜粋
ア 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。	(1) 総合的な言語能力を養うため、話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことについて相互に密接な関連を図り、効果的に指導するようにする。 (2) 生徒の読書意欲を喚起し、読書の幅を一層広げ、文字・活字文化に対する理解が深まるようにする。 (3) 近代以降の文章や文学の変遷について、必要に応じて扱うようにする。 (4) 教材は、近代以降の様々な種類の文章とする。その際、現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を含めるものとする。また、必要に応じて翻訳の文章や近代以降の文語文などを用いることができる。
イ 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。	
ウ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。	
エ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現すること。	
オ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てること。	

3 教科書の調査研究

(1) 内容

ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査項目	対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a 近代以降の文学的な文章教材の数と文章教材に占める割合（作品名と作者名は「別紙2」）	内容イ《文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。》 内容ウ《文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。》	個、%
b 近代以降の説明的な文章教材の数と文章教材に占める割合（作品名と作者名は「別紙2」）	内容ア《文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。》 内容ウ《文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。》	個、%

イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

＜上記調査項目関連＞

a 近代以降の文学的な文章教材の作品名と作者名

d 近代以降の説明的な文章教材の作品名と作者名

＜その他＞

* 北朝鮮による拉致問題の扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）

* 防災や、自然災害の扱い

* オリンピック、パラリンピックの扱い

② 具体的に調査研究する事項を設定した理由等

・ 高等学校学習指導要領では、現代文Bの「内容」において「文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。」「文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。」及び「文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。」と示されているため、どのような文章がどの程度掲載されているかを調査する。

* 北朝鮮による拉致問題については、東京都教育委員会教育目標の基本方針1に基づき、人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。

* 東京都では、自然災害時における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害の扱いについて調査する。

* 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。

(2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

① 話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導に関わる教材の扱い方

② 読書指導に関わる教材の扱い方

③ 実用的な文章、翻訳の文章、近代以降の文語文など、近代以降の様々な文章教材の扱い方

④ 編集上の工夫・その他

「別紙1」【(1)内容 ア 調査研究の総括表】（現代文B）

調査項目			a		b		(文章教材として 数えた数の合計)
			個	%	個	%	
発行者	教科書番号	教科書名	個	%	個	%	
明治	313	精選現代文B	17	44.7	21	0.6	38
明治	314	高等学校現代文B	20	50.0	20	50.0	40
第一	317	高等学校 現代文B	15	39.5	26	68.4	38
桐原	319	探求現代文B	17	44.7	21	55.3	38
桐原	320	現代文B	18	48.6	19	51.4	37
東書	321	新編現代文B	19	51.4	18	48.6	37
東書	322	精選現代文B	15	38.5	24	61.5	39
三省堂	323	高等学校現代文B 改訂版	19	41.3	27	58.7	46
三省堂	324	精選現代文B 改訂版	17	39.5	26	60.5	43
三省堂	325	明解現代文B 改訂版	16	48.5	17	51.5	33
教出	326	精選現代文B	17	30.9	38	69.1	55
教出	327	現代文B	18	45.0	22	55.0	40
教出	328	新編現代文B	17	50.0	17	50.0	34
大修館	329	現代文B 改訂版 上巻	11	40.7	16	59.3	27
	330	現代文B 改訂版 下巻	8	36.4	14	63.6	22

「別紙1」【(1)内容 ア 調査研究の総括表】（現代文B）

調査項目			a		b		(文章教材として 数えた数の合計)
			個	%	個	%	
発行者	教科書番号	教科書名	個	%	個	%	
大修館	331	精選現代文B 新訂版	17	38.6	27	61.4	44
大修館	332	新編現代文B 改訂版	14	38.9	22	61.1	36
数研	333	改訂版 現代文B	16	42.1	22	57.9	38
数研	334	新編 現代文B	16	48.5	17	51.5	33
明治	335	新 精選現代文B	17	39.5	26	60.5	43
明治	336	新 高等学校現代文B	21	48.8	22	51.2	43
筑摩	337	精選現代文B 改訂版	16	30.2	37	69.8	53
筑摩	338	現代文B 改訂版	18	34.6	34	65.4	52
第一	339	高等学校 改訂版 現代文B	18	40.9	26	59.1	44
第一	340	高等学校 改訂版 標準現代文B	21	52.5	19	47.5	40
桐原	341	新 探求現代文B	20	39.2	31	60.8	51
平均値			17	42.0	23	58.3	

- ・a及びbは調査対象を本編の文章教材とし、教材を補足する文章や資料、付録等については文章教材として数えず、その扱いを「別紙3」に記述した。
- ・aの近代以降の文学的文章については、小説(又は小説の一部)の1作品を1教材として数えた。
- ・aのうち、近代以降の詩については1編を1教材として数えた。
- ・aのうち、近代以降の短歌や俳句については教科書の編集上の一つのまとまり(例:「短歌〇首」として十数首を1教材として編集したもの)を1教材として数えた。
また、短歌を紹介、解説している文章については、教科書の編修意図を考慮して分類した。
- ・bの近代以降の説明的な文章については、評論や随想などの教科書中に掲載された1部分を1教材として数えた。
- ・上記a及びbで数えた教材については、「別紙2」に教材名等を記述している。
- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導について編集されたものについては、文章教材として数えず、その扱いを「別紙3」に記述した。

「別紙2-1」 【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容 a 近代以降の文学的な文章教材の作品名と作者名 b 近代以降の説明的な文章教材の作品名と作者名 発行者 明治313】 (現代文B)

近代以降						
文学的な文章		詩歌			説明的な文章	
作品名・教材名	作者名	教材名	作品名	作者名等	作品名・教材名	筆者名等
山月記	中島敦	小景異情		室生犀星	桜との出会い	馬場あき子
ハキリアリ	小川洋子	永訣の朝		宮沢賢治	本を積んだ小舟—ファーブル『昆虫記』	宮本輝
パプーシユカ	よしもとばなな	高度		小池昌代	この瞬間を歴史に刻む	金森修
こころ	夏目漱石	昼ながら幽かに光る(短歌十二首)		北原白秋	脳のなかの古い水路	福岡伸一
檸檬	梶井基次郎			釈道空	近代都市のレトリックスカインと塔状建築	陣内秀信
兵隊宿	竹西寛子			塚本邦雄	芸術を楽しむ	長谷川宏
舞姫	森鷗外			河野裕子	科学と世界観	村上陽一郎
		金剛の露(俳句十二句)		正岡子規	意味論的旅と越境	今福龍太
				河東碧梧桐	いのちのかたち	西谷修
				杉田久女	モードの視線	鷺田清一
				川端茅舎	身体という受動性	細見和之
		およぐひと		萩原朔太郎	グローバリゼーションの光と影	小熊英二
		二十億光年の孤独		谷川俊太郎	異文化理解	青木保
		石を蹴る		平田俊子	猫は後悔するか	野矢茂樹
		牡丹花は咲き定まりて(短歌十二首)		木下利玄	「である」ことと「する」こと	丸山真男
				葛原妙子	釣りのハイパー・セミオティクス	中沢新一
				近藤芳美	文学史はなにを辿るのか	橋本治
				高野公彦	群衆の顔	港千尋
				村上鬼城	「名づけ」の精神史	市村弘正
		吹きおこる秋風(俳句十二句)		尾崎放哉	〈読み〉の楽しみ	丸山圭三郎
				石田波郷	私の個人主義	夏目漱石
				橋本多佳子		
文学的な文章合計	7		詩歌合計	10	説明的な文章合計	21
			文学的な文章(詩歌含む)	17	近代以降の文章合計	38

「別紙2-1」 【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容 a 近代以降の文学的な文章教材の作品名と作者名 b 近代以降の説明的な文章教材の作品名と作者名 発行者 明治314】 (現代文B)

近代以降						
文学的な文章		詩歌			説明的な文章	
作品名・教材名	作者名	教材名	作品名	作者名等	作品名・教材名	筆者名等
山月記	中島敦	旅上		萩原朔太郎	月あかり雪あかり花あかり	青木玉
夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について	村上春樹	永訣の朝		宮沢賢治	詩を翻訳する少年	リービ英雄
ナイフ	井上ひさし	弟に速達で		辻征夫	心の脈脈	河合隼雄
白紙	高橋源一郎	風が来てささやくやうに(短歌十首)		北原白秋	幸福について	見田宗介
こころ	夏目漱石			釈道空	愛づる一時間を見つめる	中村桂子
マスク	干刈あがた			宮柁二	宇宙では「上」も「下」もない?	小浜逸郎
オデュッセイア	恩田陸			塚本邦雄	多様性は人間だけのものか	福岡伸一
博士の愛した数式	小川洋子			河野裕子	コンコルドの誤り	長谷川眞理子
怖れ	辻邦生	いきいきとほそ目かがやく(俳句十句)		正岡子規	通潤橋—橋と日本人	上田篤
舞踏会	芥川龍之介			河東碧梧桐	絵はすべての人の創るもの	岡本太郎
				飯田蛇笏	「間」の感覚	高階秀爾
				萩原井泉水	はじめての失敗	平出隆
				西東三鬼	おまえはどこに立っている	菱尚中
		わたしが一番きれいだったとき		茨木のり子	言葉を理解する	長尾真
		九月の風		黒田三郎	小説とは何か	三島由紀夫
		流星		小池昌代	あるいは「風」について	橋本治
		わが腕に涙ながして(短歌十首)		馬場あき子	物の見えたる光	中野孝次
				岡井隆	「世間」とは何か	阿部謹也
				中城ふみ子	サフラン	森鷗外
				福島泰樹	私の個人主義	夏目漱石
				道浦母都子		
				中村草田男		
				星野立子		
				中村汀女		
				石田波郷		
				鷹羽狩行		
文学的な文章合計	10		詩歌合計	10	説明的な文章合計	20
			文学的な文章(詩歌含む)	20	近代以降の文章合計	40

近代以降						
文学的な文章		詩歌			説明的な文章	
作品名・教材名	作者名	教材名	作品名	作者名等	作品名・教材名	筆者名等
山月記	中島敦	わたしが一番きれいだったとき	見えない配達夫	茨木のり子	「美しい」を探す旅に出よう	田中真知
こころ	夏目漱石	ちがう人間ですよ	直感の抱擁	長谷川龍生	手の変幻	清岡卓行
毬子の七の目	恩田陸	永訣の朝	春と修羅	宮沢賢治	歳時記について	山本健吉
バグダッドの靴磨き	米原万里	足と心	会社の人事	中桐雅夫	日本語史の「当たり前」	小林隆
タオル	重松清	冬の日	地球の水辺	以倉紘平	日本人の「顔」	中西雅之
おおるり	三浦哲郎	自然の背後に隠れて居る	青猫	萩原朔太郎	自己とは一つの物語である	榎本博明
舞姫	森鷗外				働かないアリに意義がある	長谷川英祐
枯野抄	芥川龍之介				メディアの豊かさ	古郡廷治
檸檬	梶井基次郎				反アート入門	榎木野衣
					動的平衡	福岡伸一
					トランス・サイエンスの時代	村上陽一郎
					「グローバル化」の中の異文化理解	住原則也
					連帯という言葉の意味	内山節
					注連縄一つつましく貧しく清楚な形	柳宗理
					東京タワー—揺れる天空で決死の塗装	田中哲男
					ノーベル賞vs.イグ・ノーベル賞	竹内薫
					写真の持つ力	長倉洋海
					未来世代への責任	岩井克人
					言語が見せる世界	野矢茂樹
					いのちのかたち	西谷修
					身体の個別性	浜田寿美男
					目に見える制度と見えない制度	中村雄二郎
					定型があつてこそおもしろい	高野公彦
					句を切る	長谷川權
					現代日本の開化	夏目漱石
					「である」と「する」こと	丸山真男
文学的な文章合計	9		詩歌合計	6	説明的な文章合計	26
			文学的な文章(詩歌含む)	15	近代以降の文章合計	41

「別紙2-1」 【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容 a 近代以降の文学的な文章教材の作品名と作者名 b 近代以降の説明的な文章教材の作品名と作者名 発行者 桐原319】 (現代文B)

文学的な文章		近代以降 詩歌			説明的な文章	
作品名・教材名	作者名	教材名	作品名	作者名等	作品名・教材名	筆者名等
山月記	中島敦	天景	月に吠える	萩原朔太郎	自己とは何か(あるいはおいしい牡蠣フライの食べ方)	村上春樹
靴の話	大岡昇平	猫	月に吠える	萩原朔太郎	偽りの答案	吉田喜重
バックストローク	小川洋子	死なない蝸	宿命	萩原朔太郎	イスラム感覚	藤原新也
ころ	夏目漱石	鮎に鮎	鮎に鮎	山之口獺	行動としての話し言葉	竹内敏晴
檸檬	梶井基次郎	ふと	夏の墓	吉原幸子	科学者とは何か	村上陽一郎
愛のサーカス	別役実	永訣の朝	春と修羅	宮沢賢治	暴力はどこからきたか	山極寿一
詩人の生涯	安部公房	麦わら帽子のへこみ		穂村弘	動物の信号と人間の言語	大庭健
舞姫	森鷗外	短歌八首		正岡子規	ネットワークとコミュニケーション	江下雅之
				与謝野晶子	木を伐る人／植える人	赤坂憲雄
				長塚節	「である」と「する」こと	丸山真男
				斎藤史	オブジェとイメージ	高階秀爾
				春日井健	言葉の(意味)と(表徴)	中村雄二郎
				岸上大作	市民社会化する家族	今村仁司
				河野裕子	コペルニクスと神秘思想	小山慶太
				中川佐和子	沙魚	明川哲也
		俳句八首		飯田蛇笏	「普遍性」	茂木健一郎
				竹下しづの女	詩人のふるさと	富岡多恵子
				杉田久女	ファンタジー・ワールドの誕生	今福龍太
				種田山頭火	霧の風景	桑子敏雄
				加藤楸邨	支配の役割	小坂井敏晶
				渡辺白泉	地図の想像力	若林幹夫
				堀鞆男		
				坪内稔典		
文学的な文章合計	8		詩歌合計	9	説明的な文章合計	21
			文学的な文章(詩歌含む)	17	近代以降の文章合計	38

「別紙2-1」 【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容 a 近代以降の文学的な文章教材の作品名と作者名 b 近代以降の説明的な文章教材の作品名と作者名 発行者 桐原320】 (現代文B)

文学的な文章		近代以降 詩歌			説明的な文章	
作品名・教材名	作者名	教材名	作品名	作者名等	作品名・教材名	筆者名等
山月記	中島敦	天景	月に吠える	萩原朔太郎	自己とは何か(あるいはおいしい牡蠣フライの食べ方)	村上春樹
靴の話	大岡昇平	猫	月に吠える	萩原朔太郎	カフェの開店準備	小池昌代
バックストローク	小川洋子	死なない蝸	宿命	萩原朔太郎	ミロのヴィーナス	清岡卓行
ころ	夏目漱石	鮎に鮎	鮎に鮎	山之口獺	読む	外山滋比古
檸檬	梶井基次郎	ふと	夏の墓	吉原幸子	白	原研哉
畜犬談	太宰治	永訣の朝	春と修羅	宮沢賢治	言葉は「ものの名前」ではない	内田樹
濃紺	幸田文	麦わら帽子のへこみ		穂村弘	イスラム感覚	藤原新也
詩人の生涯	安部公房	短歌八首		正岡子規	行動としての話し言葉	竹内敏晴
舞姫	森鷗外			与謝野晶子	科学者とは何か	村上陽一郎
				長塚節	「大人になる」ことの曖昧化	小浜逸郎
				斎藤史	いのちは誰のものか?	鷲田清一
				春日井健	木を伐る人／植える人	赤坂憲雄
				岸上大作	「である」と「する」こと	丸山真男
				河野裕子	沙魚	明川哲也
				中川佐和子	日本文化私観	坂口安吾
		俳句八首		飯田蛇笏	言葉の(意味)と(表徴)	中村雄二郎
				竹下しづの女	市民社会化する家族	今村仁司
				杉田久女	コペルニクスと神秘思想	小山慶太
				種田山頭火	「普遍性」	茂木健一郎
				加藤楸邨		
				渡辺白泉		
				堀鞆男		
				坪内稔典		
文学的な文章合計	9		詩歌合計	9	説明的な文章合計	19
			文学的な文章(詩歌含む)	18	近代以降の文章合計	37

文学的な文章		近代以降 詩歌			説明的な文章	
作品名・教材名	作者名	教材名	作品名	作者名等	作品名・教材名	筆者名等
山月記	中島敦	パンの話	夏の墓	吉原幸子	文系と理系の壁はあるか	最相葉月
少年という名前のメカ	松田青子	帰途	言葉のない世界	田村隆一	「市民」のイメージ	日野啓三
夏の花	原民喜	永訣の朝	春と修羅	宮沢賢治	ミロのヴィーナス	清岡卓行
ひよこの眼	山田詠美	大きなる一短歌十六首(16首)		北原白秋	ホンモノのおカネの作り方	岩井克人
こころ	夏目漱石			塚本邦雄	人類による環境への影響	鷺谷いづみ
舞姫	森鷗外			前田夕暮	忘れられる権利	宮下紘
檸檬	梶井基次郎			前登志夫	病と科学	柳澤桂子
美神	三島由紀夫			佐佐木信綱	ロゴスと言葉	丸山圭三郎
鞆	安部公房			吉川宏志	スポーツとナショナリズム	阿部潔
捨てない女	多和田葉子			土岐善麿	南の貧困/北の貧困	見田宗介
涙の贈り物	レベッカ・ブラウン 柴田元幸訳			河野裕子	戦争の(不可能性)	西谷修
				花山多佳子	「である」ことと「する」こと	丸山真男
				加藤治郎	ネット上の発言の劣化について	内田樹
				穂村弘	空白の意味	原研哉
				渡辺松男	ぬくみ	鷺田清一
				与謝野晶子	「なぜ」に答えられない科学	池内了
				山崎方代	身体(の)疎外	黒崎政男
				寺山修司	虚ろなまなざし	岡真理
				玉城徹	猫は後悔するか	野矢茂樹
		ギリシア的抒情詩	Ambarvalia	西脇順三郎	擬似群衆の時代	港千尋
		湖水	蛾	金子光晴	ある(共生)の経験から	石原吉郎
		時計	定本 青猫	萩原朔太郎	陰翳礼讃	谷崎潤一郎
		鞆韃は一俳句十六句(16句)		三橋鷹女	日本文化の雑種性	加藤周一
				鷹羽狩行	無常ということ	小林秀雄
				加藤楸邨	現代日本の開化	夏目漱石
				正木ゆう子	累積的社会・停滞的社会	C・レヴィ=ストロース
				山口誓子		川田順造・渡辺公三訳
				篠原鳳作	写真に何が可能か	多木浩二
				渡辺白泉		
				三橋敏雄		
				石田波郷		
				小澤實		
				西東三鬼		
				金子兜太		
				中村汀女		
				尾崎放哉		
				千葉皓史		
				田中裕明		
文学的な文章合計	11		詩歌合計	8	説明的な文章合計	27
			文学的な文章(詩歌含む)	19	近代以降の文章合計	46

近代以降						
文学的な文章		詩歌			説明的な文章	
作品名・教材名	作者名	教材名	作品名	作者名等	作品名・教材名	筆者名等
山月記	中島敦	二十億光年の孤独	二十億光年の孤独	谷川俊太郎	地球上の「旅人」	ヤマザキマリ
月火水木金土日	川上弘美	パンの話	夏の墓	吉原幸子	最初のペンギン	茂木健一郎
蠅	横光利一	永訣の朝	春と修羅	宮沢賢治	ミロのヴィーナス	清岡卓行
レキシントンの幽霊	村上春樹	木に花咲き一短歌十五首(15首)		前田夕暮	未来世代への責任	岩井克人
こころ	夏目漱石			河野裕子	恐怖とは何か	岸田秀
靴の話	大岡昇平			渡辺松男	メディアと歴史	若林幹夫
鞆	安部公房			玉城徹	木の葉と光	日高敏隆
舞姫	森鷗外			小中英之	コンクリートの時代	隈研吾
飛行機で眠るのは難しい	小川洋子			吉川宏志	スポーツとナショナリズム	阿部潔
				窪田空穂	戦争の〈不可能性〉	西谷修
				前登志夫	「である」ことと「する」こと	丸山真男
				上田三四二	「選べる社会」の難しさ	松田美佐
				土岐善麿	空白の意味	原研哉
				宮柊二	わかりやすいはわかりにくい?	鷺田清一
				塚本邦雄	「ブーボー」と「マンマ」の記号論	池上嘉彦
				花山多佳子	身体〈の〉疎外	黒崎政男
				加藤治郎	判断停止の快感	大西赤人
				穂村弘	病と科学	柳澤桂子
		樹下の二人	智恵子抄	高村光太郎	「私」消え、止まらぬ連鎖	高村薫
		死んだ男	鮎川信夫詩集	鮎川信夫	南の貧困/北の貧困	見田宗介
		小諸なる古城のほとり	落梅集	島崎藤村	虚ろなまなざし	岡真理
		渡り鳥一俳句十五句(15句)		上田五千石	忘れられる権利	宮下紘
				正木ゆう子	日本文化の雑種性	加藤周一
				小澤實	無常ということ	小林秀雄
				高野素十	ネット上の発言の劣化について	内田樹
				富澤赤黄男	カタカナ語は享受すべきか	川口良・角田史幸
				西村和子		
				種田山頭火		
				篠原鳳作		
				田中裕明		
				渡辺白泉		
				三橋敏雄		
				金子兜太		
				高浜虚子		
				鷹羽狩行		
				黒田杏子		
文学的な文章合計	9		詩歌合計	8	説明的な文章合計	26
			文学的な文章(詩歌含む)	17	近代以降の文章合計	43

文学的文章		近代以降		説明的文章		
作品名・教材名	作者名	教材名	作品名	作者名等	作品名・教材名	筆者名等
水かまきり	川上弘美	汚れつちまつた悲しみに・・・	中原中也全集第一巻	中原中也	葉桜の頃	俵万智
芋ようかん	内海隆一郎	耳の秋	夢のうちと	新川和江	蜜柑の受難	吉野弘
ナイン	井上ひさし	未確認飛行物体	春の散歩	入沢康夫	コンコルドの誤り	長谷川真理子
カコの話	梨木香歩	ただ一枚の絵葉書 短歌十二首(12首)		河野裕子	想像する力	松沢哲郎
こころ	夏目漱石			横山未来子	前の駅出ました	佐藤雅彦
山椒魚	井伏鱒二			石川啄木	反対語を意識して考えよう	飯間浩明
ピクニックの準備	恩田陸			伊藤一彦	持たないという豊かさ	原研哉
山月記	中島敦			小池光	ネット人格	坂村健
魚の餌	梅崎春生			岡井隆	春の小川の思い出	さくらももこ
				与謝野晶子	千年の時が与えてくれる安堵	小川洋子
				五島美代子	科学的というのはどういう方法か	森博嗣
				梅内美華子	ホンモノのおカネの作り方	岩井克人
				若山牧水	コモリン岬	見田宗介
				笹公人	なまけものコンプレックス	別役実
				黒瀬珂瀾	「自由」のはき違え	鷲田清一
		ユメカサゴ	魚たち・犬たち・少女たち	吉原幸子	かけがえのない未来	養老孟司
		永訣の朝		宮沢賢治	十五歳の東京大空襲	半藤一利
		ノートの先に海 俳句十二句(12句)		高野素十		
				吉屋信子		
				尾崎放哉		
				加藤楸邨		
				西村和子		
				中村汀女		
				山口誓子		
				長嶋有		
				山口優夢		
				石田郷子		
				上田五千石		
				稲畑汀子		
文学的文章合計	9		詩歌合計	7	説明的文章合計	17
			文学的文章(詩歌含む)	16	近代以降の文章合計	33

近代以降						
文学的な文章		詩歌		説明的な文章		
作品名・教材名	作者名	教材名	作品名	作者名等	作品名・教材名	筆者名等
山月記	中島敦	竹		萩原朔太郎	ミロのヴィーナス	清岡卓行
こころ	夏目漱石	永訣の朝		宮沢賢治	知とは何か	内田樹
バックストローク	小川洋子	のちのおもひに		立原道造	日本の庭について	山本健吉
卒塔婆小町	三島由紀夫	落葉		ヴェルレエヌ 上田敏訳	市民社会化する家族	今村仁司
檸檬	梶井基次郎	小諸なる古城のほとり		島崎藤村	言葉と貨幣	丸山圭三郎
レーダーホーゼン	村上春樹	小景異情		室生犀星	方法としての異世界	見田宗介
俘虜記	大岡昇平	現代の短歌(10首)		明石海人	アイデンティティの混交性	梅森直之
忘れられたワルツ	絲山秋子			渡辺直己	衣服という言葉	小野原教子
舞姫	森鷗外			斎藤茂吉	他人の中の自分	池上哲司
				塚本邦雄	互酬性の地平—エカシの語りから	今福龍太
				寺山修司	世代について	四方田犬彦
				佐佐木幸綱	地図の想像力	若林幹夫
				道浦母都子	脱構築とは何か	大橋洋一
				李正子	資本主義と社会的欲望	岩井克人
				阿木津英	「である」ことと「する」こと	丸山真男
				俵万智	「安楽」への全体主義	藤田省三
		現代の俳句(10句)		高浜虚子	現代日本の開化	夏目漱石
				種田山頭火	漫罵	北村透谷
				篠原鳳作	通俗書簡文	樋口一葉
				富沢赤黄男	環境保護は何を意味するか	加茂直樹
				山口誓子	理不尽な進化—誤解を理解する	吉川浩満
				水原秋桜子	技術の変質と二十一世紀の課題	加藤尚武
				金子兜太	文学の概念	加藤周一
				橋本多佳子	(私)はどこへ行く?	黒崎政男
				坪内稔典	アーキテクチャの権力	大屋雄裕
				夏石番矢	ロスト近代	橋本努
					「知」をこえる知	田川建三
					「歴史」を語る	野家啓一
					言語が見せる世界	野矢茂樹
					後生の桜	石牟礼道子
					望郷と海	石原吉郎
					グローバル化の波打ち際で	西谷修
					幽玄の神秘主義	中沢新一
					出来事としての文学	小林康夫
					妄想	森鷗外
					陰翳礼讃	谷崎潤一郎
					日本文化私観—美について	坂口安吾
					平家物語	小林秀雄
文学的な文章合計	9		詩歌合計	8	説明的な文章合計	38
			文学的な文章(詩歌含む)	17	近代以降の文章合計	55

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 近代以降の文学的な文章教材の作品名と作者名 b 近代以降の説明的な文章教材の作品名と作者名 発行者 大修館331】 (現代文B)

文学的な文章		近代以降			説明的な文章	
作品名・教材名	作者名	教材名	作品名	作者名等	作品名・教材名	筆者名等
山月記	中島敦	竹		萩原朔太郎	対話の精神	平田オリザ
山椒魚	井伏鱒二	蟬頃		室生犀星	ミロのヴィーナス	清岡卓行
巨人の接待	小川洋子	樹下の二人		高村光太郎	豊かさをつながり	阿部健一
ころ	夏目漱石	永訣の朝		宮沢賢治	家族化するペット	山田昌弘
たけくらべ	樋口一葉	I was born		吉野弘	食べ物を「はかる」	池内了
赤い繭	安部公房	短歌 十三首(13首)		吉井勇	科学の現在を問う	村上陽一郎
美神	三島由紀夫			木下利玄	「考える葦」であり続ける	小川和也
檸檬	梶井基次郎			宮柊二	生命情報・社会情報・機械情報	西垣通
待つ	太宰治			佐藤佐太郎	敬語への自覚、他者への自覚	橋本治
舞姫	森鷗外			木俣修	分かち合う社会	山極寿一
				塚本邦雄	コミュニティから見た日本	広井良典
				岡井隆	世界は、いま——「多文化世界」の構築	青木保
				斎藤史	漫罵	北村透谷
				河野裕子	「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ	内田樹
				佐佐木幸綱	ころは見える?	鷲田清一
				高野公彦	実体の美と状況の美	高階秀爾
				俵万智	心に「海」を持って	山崎正和
				水原紫苑	昔の光	松浦寿輝
		俳句 十五句(15句)		川端茅舎	浄瑠璃寺の春	堀辰雄
				飯田龍太	政治を支える心構え	荻部直
				高野素十	「である」と「すること」	丸山真男
				久保田万太郎	人を指す言葉——自称詞・対称詞・他称詞	鈴木孝夫
				大野林火	猫は後悔するか	野矢茂樹
				荻原井泉水	生物多様性の恩恵	鷲谷いづみ
				尾崎放哉	地球システムの中の人間	竹内啓
				杉田久女	無常ということ	小林秀雄
				鷹羽狩行	日本文化の三つの時間	加藤周一
				松本たかし		
				金子兜太		
				西東三鬼		
				橋本多佳子		
				秋元不死男		
				黛まどか		
文学的な文章合計	10		詩歌合計	7	説明的な文章合計	27
			文学的な文章(詩歌含む)	17	近代以降の文章合計	44

文学的な文章		近代以降			説明的な文章	
作品名・教材名	作者名	教材名	作品名	作者名等	作品名・教材名	筆者名等
山月記	中島敦	I was born	消息	吉野弘	情報の彫刻	原研哉
水かまきり	川上弘美	サーカス	山羊の歌	中原中也	見る	太田省吾
水仙	太宰治	永訣の朝	春と修羅	宮澤賢治	思考バイアス	池内了
こころ	夏目漱石	短歌(16首)		正岡子規	実体の美と状況の美	高階秀爾
舞姫	森鷗外			釈迺空	ラップトップ抱えた「石器人」	長谷川眞理子
急須	南木佳士			斎藤史	アイオワの玉葱	長田弘
砂の本	<small>ホルヘ・ルイス・ボルヘス 篠田一士訳</small>			宮柊二	生物の作る環境	日高敏隆
藤野先生	魯迅 竹内好訳			近藤芳美	物語るという欲望	内田樹
				岡井隆	文学の仕事	加藤周一
				馬場あき子	芝	蜂飼耳
				李正子	空と風と星と詩	茨木のり子
		死にたまふ母	赤光	斎藤茂吉	異時代人の目	若桑みどり
		表札	表札など	石垣りん	ファンタジー・ワールドの誕生	今福龍太
		夜がやって来る	サンチョ・パンサの帰郷	石原吉郎	つながりと秩序	北田暁大
		俳句(22句)		村上鬼城	現代日本の開化	夏目漱石
				種田山頭火	身体、この遠きもの	鷺田清一
				久保田万太郎	絵画の二十世紀	前田英樹
				川端茅舎	科学・技術と生活空間	村上陽一郎
				篠原鳳作	虚ろなまなざし	岡真理
				細見綾子	「である」ことと「する」こと	丸山眞男
				金子兜太	近代の成立—遠近法	橋爪大三郎
				飯田龍太	「自然を守る」ということ	森岡正博
				高柳重信	日本文化私観	坂口安吾
				鷹羽狩行	ことばへの問い	熊野純彦
				夏石番矢	物語としての自己	野口裕二
					Not I, not I ...	中沢新一
					戦場の風揚げ	李禹煥
					チャンピオンの定義	大江健三郎
					陰翳礼讃	谷崎潤一郎
					無常ということ	小林秀雄
					小説とは何か	三島由紀夫
					遠野物語	柳田國男
					ものごと	木村敏
					死と向き合う	清水哲郎
					貨幣共同体	岩井克人
					寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか	渡辺一夫
					リスク社会とその希望	大澤真幸
文学的な文章合計	8		詩歌合計	8	説明的な文章合計	37
			文学的な文章(詩歌含む)	16	近代以降の文章合計	53

文学的な文章		近代以降			説明的な文章	
作品名・教材名	作者名	教材名	作品名	作者名等	作品名・教材名	筆者名等
山月記	中島敦	わたしが一番きれいだったとき	見えない配達夫	茨木のり子	「自明性の罫」からの解放	見田宗介
ころ	夏目漱石	ちがう人間ですよ	直感の抱擁	長谷川龍生	自他の「間あい」	鷲田清一
タオル	重松清	永訣の朝	春と修羅	宮沢賢治	「私」中心の日本語	森田良行
葉桜と魔笛	太宰治	創作の楽しみ・短歌と俳句 短歌(20首)		大西民子	日本人の「自然」	木村敏
バグダッドの靴磨き	米原万里			北原白秋	存在としての建築	隈研吾
檸檬	梶井基次郎			斎藤茂吉	手の変幻	清岡卓行
骰子の七の目	恩田陸			島木赤彦	働かないアリに意義がある	長谷川英祐
舞姫	森鷗外			小島ゆかり	消費社会とは何か	國分功一郎
枯野抄	芥川龍之介			永田和宏	「集合知」という考え方	西垣通
幼なじみたち	遠藤周作			富小路禎子	動的平衡	福岡伸一
				笹井嘉一	トランス・サイエンスの時代	村上陽一郎
				真鍋正男	「グローバル化」中の異文化理解	住原則也
				島田修二	連帯という言葉の意味	内山節
				坪野哲久	注連縄一つましく貧しく清楚な形	柳宗理
				原阿佐緒	東京タワー揺れる天空で決死の塗装	田中哲男
				寺山修司	ノーベル賞VS.イグ・ノーベル賞	竹内薫
				前登志夫	写真の持つ力	長倉洋海
				塚本邦雄	未来世代への責任	岩井克人
				山崎方代	言語が見せる世界	野矢茂樹
				俵万智	いのちのかたち	西谷修
				河野裕子	身体の個性	浜田寿美男
				高野公彦	目に見える制度と見えない制度	中村雄二郎
				石川啄木	リスク社会とは何か	大澤真幸
		俳句(20句)		皆吉司	コスモポリタニズムの可能性	河野哲也
				沢木欣一	現代日本の開化	夏目漱石
				山口誓子	「である」ことと「する」こと	丸山真男
				富安風生		
				坪内稔典		
				飯田龍太		
				加藤楸邨		
				永田耕衣		
				大西泰世		
				折笠美秋		
				原石鼎		
				高浜虚子		
				長谷川權		
				能村登四郎		
				篠原鳳作		
				種田山頭火		
				鷹羽狩行		
				星野立子		
				中村草田男		
				高野素十		
		足と心	会社の人事	中桐雅夫		
		冬の日	地球の水辺	以倉紘平		
		自然の背後に隠れて居る	青猫	萩原朔太郎		
文学的な文章合計	10		詩歌合計	8	説明的な文章合計	26
			文学的な文章(詩歌含む)	18	近代以降の文章合計	44

近代以降						
文学的な文章		詩歌			説明的な文章	
作品名・教材名	作者名	教材名	作品名	作者名等	作品名・教材名	筆者名等
調律師のるみ子さん	いしいしんじ	そこにひとつの席が	ひとりの女に	黒田三郎	わたしはあなただったかもしれない	大脇三千代
デューク	江國香織	この世	田舎詩篇	中江俊夫	「私」という「自分」	鷺沢萌
相棒	内海隆一郎	永訣の朝	春と修羅	宮沢賢治	新しい地球観	毛利衛
ナイン	井上ひさし	創作の楽しみ・短歌と俳句 短歌(20首)		大西民子	ヒトはなぜヒトになったか	長谷川真理子
鼻	芥川龍之介			北原白秋	情けは人の……	俵万智
こころ	夏目漱石			斎藤茂吉	「マジ？」	高山宗東
話を聞かせて	山本文緒			島木赤彦	コミュニケーションの文化	平田オリザ
ひよこの眼	山田詠美			小島ゆかり	名所絵はがきの東西	高階秀爾
卒業	魚住直子			永田和宏	注連縄一つつましく貧しく清楚な形	柳宗理
バグダッドの靴磨き	米原万里			富小路禎子	東京タワー―揺れる天空で決死の塗装	田中哲男
山椒魚	井伏鱒二			筏井嘉一	ノーベル賞VS.イグ・ノーベル賞	竹内薫
山月記	中島敦			真鍋正男	ワスレナグサ	星野道夫
				島田修二	食と想像力	辺見庸
				坪野哲久	記憶のゆがみ	高橋雅延
				原阿佐緒	物語を発現する力	佐藤雅彦
				寺山修司	鏡としての他者	榎本博明
				前登志夫	僕らの時代のメディア・リテラシー	森達也
				塚本邦雄	経験の教えについて	森本哲郎
				山崎方代	新しい博物学を	池内了
				俵万智		
				河野裕子		
				高野公彦		
				石川啄木		
		俳句(20句)		皆吉司		
				沢木欣一		
				山口誓子		
				富安風生		
				坪内稔典		
				飯田龍太		
				加藤楸邨		
				永田耕衣		
				大西泰世		
				折笠美秋		
				原石鼎		
				高浜虚子		
				長谷川權		
				能村登四郎		
				篠原鳳作		
				種田山頭火		
				鷹羽狩行		
				星野立子		
				中村草田男		
				高野素十		
		食事	春'ing	高階紀一		
		こころ	純情小曲集	萩原朔太郎		
		日本海	絶景	草野心平		
		折々のうた		大岡信		
文学的な文章合計	12		詩歌合計	9	説明的な文章合計	19
			文学的な文章(詩歌含む)	21	近代以降の文章合計	40

「別紙2-2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 防災や、自然災害の扱い】(現代文B)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
明治	313	精選現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
明治	314	高等学校現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
第一	317	高等学校 現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	写真	第二章 評論(一)「写真の持つ力」長倉洋海	P226に、国際フォト・ジャーナリズム祭の写真鑑賞会を紹介する写真として「東日本大震災」に関する写真が掲載されている。
桐原	319	探求現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
桐原	320	現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
東書	321	新編現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	年表	日本近代現代文学史年表	1923 関東大震災、1995 阪神淡路大震災、2004 スマトラ沖地震、2011 東日本大震災、2014 御嶽山噴火
東書	322	精選現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	年表	日本近代現代文学史年表	1923 関東大震災、1995 阪神淡路大震災、2004 スマトラ沖地震、2011 東日本大震災、2014 御嶽山噴火
三省堂	323	高等学校現代文B 改訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	年表	近現代文学史年表	1923 関東大震災、1995 阪神淡路大震災、2011 東日本大震災
三省堂	324	精選現代文B 改訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	年表	近現代文学史年表	1923 関東大震災、1995 阪神淡路大震災、2011 東日本大震災
三省堂	325	明解現代文B 改訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	本文、脚注 年表	近代以降の文章(説明的文章の一節) 近現代文学史年表	P263 スマトラ沖大地震 P342 1923 関東大震災、P347 1995 阪神淡路大震災、2004 新潟県中越地震、2011 東日本大震災
教出	326	精選現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
教出	327	現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	年表	近現代文学史年表	P427 1923 関東大震災起こる、P434 1995 阪神淡路大震災、P436 2011 東日本大震災
教出	328	新編現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	コラム 年表	折々のことば 近現代文学史年表	P10 三月十一日の地震 P392 1923 関東大震災、P395 1995 阪神淡路大震災、P396 2011 東日本大震災
大修館	329	現代文B 改訂版 上巻	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	年表	日本近現代文学史年表	P280 1923 関東大震災、P284 1995 阪神淡路大震災、P285 2004新潟県中越地震、スマトラ沖大地震、2011 東日本大震災
	330	現代文B 改訂版 下巻	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	本文 年表	近代以降の説明的文章 日本近現代文学史年表	P78、79 自然災害、地震、旱魃 P256 1923 関東大震災、P260 1995 阪神淡路大震災、P261 2004 新潟県中越地震、スマトラ沖大地震、2011 東日本大震災
大修館	331	精選現代文B 新訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	年表	日本近現代文学史年表	P448 1923 関東大震災、P452 1995 阪神淡路大震災、P453 2004 新潟県中越地震、スマトラ沖大地震、2011 東日本大震災
大修館	332	新編現代文B 改訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	年表	日本近現代文学史年表	P331 1923 関東大震災、P334 1995 阪神淡路大震災、P335 2004 新潟県中越地震、スマトラ沖大地震、2011 東日本大震災
数研	333	改訂版 現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	年表	近現代文学史年表	P421 1995 阪神淡路大震災、2011 東日本大震災
数研	334	新編 現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	年表	近現代文学史年表	P378 1923 関東大震災、P383 1995 阪神淡路大震災、2011 東日本大震災
明治	335	新 精選現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	年表	日本近・現代文学史年表	P402 1923 関東大震災、P409 1995 阪神淡路大震災、P410 2011 東日本大震災
明治	336	新 高等学校現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	年表	日本近・現代文学史年表	P353 1923 関東大震災、P361 1995 阪神淡路大震災、P362 2011 東日本大震災
筑摩	337	精選現代文B 改訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	年表	近現代文学史	P476 1923 関東大震災、P479 1995 阪神淡路大震災、2011 東日本大震災
筑摩	338	現代文B 改訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	本文、脚注 年表	近代以降の説明的文章 近現代文学史	P90 東日本大震災 P476 1923 関東大震災、P479 1995 阪神淡路大震災、2011 東日本大震災
第一	339	高等学校 改訂版 現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	本文 巻末年表	近代以降の説明的文章 近現代文学史年表	P356、357 自然災害、地震、旱魃 1923 関東大震災、1995 阪神淡路大震災、2011 東日本大震災
第一	340	高等学校 改訂版 標準現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	巻末年表	近現代文学史年表	1923 関東大震災、1995 阪神淡路大震災、2011 東日本大震災
桐原	341	新 探求現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	年表	日本近・現代文学史年表	P441 1923 関東大震災、P446 1995 阪神・淡路大震災、P447 2011 東日本大震災

「別紙2-3」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 オリンピック、パラリンピックの扱い】(現代文B)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
明治	313	精選現代文B	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
明治	314	高等学校現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文	前編 6小説(2)「ナイン」井上ひさし	P78に、「東京で五輪大会が開かれた年」との記載がある。同ページ脚注にも東京オリンピックの開催年について記載がある。
第一	317	高等学校 現代文B	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
桐原	319	探求現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文	I部 6小説II「バックストローク」小川洋子	P101に、「オリンピックの強化選手に選ばれ、」との記載がある。 P104に、「この間にオリンピックが一度開かれ、次のオリンピックが来年に迫っていた。」との記載がある。
桐原	320	現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文	I部 6小説II「バックストローク」小川洋子	P93に、「オリンピックの強化選手に選ばれ、」との記載がある。 P96に、「この間にオリンピックが一度開かれ、次のオリンピックが来年に迫っていた。」との記載がある。
東書	321	新編現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文、脚注 年表	近代以降の文章(文学的文章の一節) 日本近代現代文学史年表	P39 東京オリンピック 1964 東京オリンピック
東書	322	精選現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	見返し付録 写真 脚注 年表	東京オリンピック 近代以降の文章(説明的文章の一節) 日本近代現代文学史年表	国立競技場建設現場写真 P107 ベルリンオリンピック 1964 東京オリンピック
三省堂	323	高等学校現代文B 改訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文 年表	近代以降の文章(説明的文章の一節) 近現代文学史年表	P140~141 オリンピック 1964 東京オリンピック
三省堂	324	精選現代文B 改訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文 本文 年表	近代以降の文章(説明的文章の一節) 近代以降の文章(説明的文章の一節) 近現代文学史年表	P122~123 オリンピック P241 オリンピック 1964 東京オリンピック
三省堂	325	明解現代文B 改訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	写真、脚注 年表	近代以降の文章(文学的文章の一節) 近現代文学史年表	P93 東京オリンピック P345 東京オリンピック開催
教出	326	精選現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文	近代以降の文章(文学的文章の一節)	P192、195 オリンピック
教出	327	現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文	近代以降の文章(文学的文章の一節)	P136、139 オリンピック
教出	328	新編現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	年表	近現代文学史年表	P394 東京オリンピック
大修館	329	現代文B 改訂版 上巻	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	年表	日本近代現代文学史年表	P283 東京オリンピック大会
	330	現代文B 改訂版 下巻	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	年表	日本近代現代文学史年表	P259 東京オリンピック大会
大修館	331	精選現代文B 新訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文、脚注 年表	近代以降の文章(説明的文章の一節) 日本近代現代文学史年表	P74 オリンピア競技 P451 1964 東京オリンピック大会
大修館	332	新編現代文B 改訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文、脚注 年表	近代以降の文章(文学的文章の一節) 日本近代現代文学史年表	P29、30 東京オリンピック P333 東京オリンピック大会
数研	333	改訂版 現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文、脚注	近代以降の文章(説明的文章の一節)	P358 ベルリン・オリンピック
数研	334	新編 現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	年表	近現代文学史年表	P382 1964 東京オリンピック、1972 札幌冬季オリンピック
明治	335	新 精選現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	年表	日本近・現代文学史年表	P406 1964 第十八回オリンピック東京大会 P410 2008 北京オリンピック
明治	336	新 高等学校現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文、脚注 年表	近代以降の文章(文学的文章の一節) 日本近・現代文学史年表	P90 東京オリンピック P358 第十八回オリンピック東京大会 P362 北京オリンピック
筑摩	337	精選現代文B 改訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	年表	近現代文学史	P479 東京オリンピック
筑摩	338	現代文B 改訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	年表	近現代文学史	P479 東京オリンピック
第一	339	高等学校 改訂版 現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	年表	近・現代文学史年表	第十八回オリンピック東京大会
第一	340	高等学校 改訂版 標準現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文、脚注 年表	近代以降の文章(文学的文章の一節) 近・現代文学史年表	P98 東京オリンピック 第十八回オリンピック東京大会
桐原	341	新 探求現代文B	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文 年表	近代以降の文章(説明的文章の一節) 日本近・現代文学史年表	P125、128 オリンピック P444 1964 東京オリンピック開催

「別紙3」【(2)構成上の工夫】(現代文B)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
明治	313	精選現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に字数を指定してまとめる、話し合う、発表するなどの指導を設け、付録に「小論文の書き方」を配置して、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・見返しに代表的作家に関連する写真を配し、作品への関心を喚起するようにしている。 ・実用的な文章として「報道文」「判決文」「企画書」を取り上げている。近代以降の文語文を配置している。 ・前編・後編の二部構成となっている。
明治	314	高等学校現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に字数を指定してまとめる、話し合う、発表するなどの指導を設け、付録に「小論文の書き方」を配置して、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・見返しに代表的作家に関連する写真を配し、作品への関心を喚起するようにしている。 ・実用的な文章として「報道文」「判決文」「企画書」を取り上げている。近代以降の文語文を配置している。 ・前編・後編の二部構成となっている。
第一	317	高等学校 現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「言葉と表現」という項目を設け、また、各章に「言語活動」を配置することにより、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・見返しに「読書のしるべ」を配置し、原典書籍の紹介を行うなど、作品への関心を喚起している。 ・「実用の文章」として単元を設けるとともに、近代以降の文語文など様々な文章を配置している。 ・第I章、第II章の二部構成とし、第I章末に「実用の文章」、第二章末に「言語活動」を配置している。
桐原	319	探求現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現」について六つの項目を設け、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・表現「文学作品を読んで話し合う」では、読書と、その後の話し合いによる作品理解についての学習を設定している。 ・近代以降の文語文をはじめとした、近代以降の様々な文章を配置している。 ・I部、II部の構成とし、各教材末に「学習の手引き」を設け、学習の指針としている。
桐原	320	現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現」という項目を六つ設け、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・表現「文学作品を読んで話し合う」では、読書と、その後の話し合いによる作品理解についての学習を設定している。 ・近代以降の文語文をはじめとした、近代以降の様々な文章を配置している。 ・I部、II部の構成とし、各教材末に「学習の手引き」を設け、学習の指針としている。
東書	321	新編現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「表現と言語活動」という項目を設定し、巻末に言語活動編を配置することで、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・巻末付録で「読書案内」を設け、高校生に読ませたい書籍を紹介している。「近現代の作家」で教材の中から代表的な作者について解説し、関連作品の読書へ導く工夫をしている。 ・実用的な文章として言語活動編でポスター、ポップ、本の帯、新聞記事などを取り上げている。また、近代以降の文語文をはじめとした、近代以降の様々な文章を配置している。 ・I部、II部、言語活動編の構成となっている。「言葉の扉」「小説の楽しみ」「考える楽しみ」などのコラムや、職業選択の参考となる文章を載せた「働くよろこび」を配置している。

「別紙3」【(2)構成上の工夫】(現代文B)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
東書	322	高等学校 現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「表現と言語活動」という項目を設定し、巻末に言語活動編を配置することで、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・教材に関連する図書を単元扉で示している。巻末付録「読書案内」では作家の作品について詳しく解説している。 ・実用的な文章として、言語活動編でポスター、ポップ、本の帯、新聞記事などを取り上げている。また、近代以降の文語文をはじめとした、近代以降の様々な文章を配置している。 ・I部、II部、言語活動編の構成となっている。「思考への扉」「文学への扉」などのコラムを配置している。
三省堂	323	高等学校現代文B 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「言葉と表現」という項目を設け、巻末に表現に関する教材を配置することにより、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成となっている。 ・巻末の「読書の扉」で教材に関連した書籍を紹介し、解説を施している。 ・巻末に実用的な文章がまとめて収録されている。見返し「広がる言葉の世界」で、海外の文学作品を日本の文豪が日本語訳した文章を取り上げている。 ・1部、2部の構成となっている。「現代評論を読むために」「批評のまなざし」「現代評論を読む」という項目を設けている。
三省堂	324	精選現代文B 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末に表現に関する教材を配置することにより、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成となっている。 ・巻末に「読書の扉」という項目を設け、関連図書を取り上げ、解説を行っている。 ・付録「広がる言葉の世界 名訳」という教材で、海外の文学作品を日本の文豪が日本語訳した文章を取り上げている。 ・第一部、第二部の構成となっている。「批評のまなざし」「現代評論を読むために」という項目を設けている。
三省堂	325	明解現代文B 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「学びを広げる」という項目を設け、巻末に表現に関する教材を配置することで、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成となっている。 ・「ブックガイド」という項目を設け、関連図書を取り上げ、解説を行っている。 ・「実用の文章」という項目を設け、文章の書き方やポップの作り方などの実用的な内容を扱っている。 ・第I部、第II部、資料編の構成となっている。「実用の文章」「日本語ストレッチ」という項目を設けている。
教出	326	精選現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・教材末の「活動」という項目や、第二部末の「表現のスイッチ」という項目を設けることにより、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・見返しに、作者に関連する写真を配し、また「参考」を設けることにより、作品に対する関心を喚起するようにしている。 ・「実用文」として単元を設けるとともに、近代以降の文語文など、近代以降の様々な文章を配置している。 ・第一部、第二部、資料編の構成になっている。「現代文読解のためのキーワード集」の資料を設けている。
教出	327	現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現」を設け、短歌やご当地CM、小論文など様々な事例に触れることで、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行うことができる。 ・巻末に「読書案内 学習を広げるための52冊」を掲載し、各単元・教材の関連図書を紹介している。 ・翻訳の文章や、近代以降の文語文など、近代以降の様々な教材を配置している。 ・「第一部」「第二部」の二部構成である。
教出	328	新編現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に「折々のことば」を設け、人物の言葉を取り上げながら様々な表現技法を提示しており、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行うことができる。 ・教材の最後の頁に「読書案内」を設け、関連図書を紹介している。 ・小論文の書き方について、順序立てて説明している。翻訳の文章や、近代以降の文語文など、近代以降の様々な教材を配置している。 ・「I部」「II部」の二部構成である。「メディアリテラシー」の項目を設け、新聞記事の読み比べや広告などを用いた表現技法の学習に触れている。

「別紙3」【(2)構成上の工夫】(現代文B)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
大修館	329	現代文B 改訂版 上巻	<ul style="list-style-type: none"> 各教材末の「学習のポイント」は、字数を指定してまとめたり、話し合ったり、発表したりする学習ができ、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの指導を相互に関連付けている。 各教材の後の「次の一冊」「ブックガイド」において、関連作品の読書へ導く工夫がされている。 「実用的な文章」として単元を設け、社会生活に関わる文章教材を配置している。また、近代以降の文語文など様々な文章を配置している。 上巻、下巻の別冊になっている。また、「評論の視点」「文学の視点」「キーワード解説」「学校系統図」という項目を設けている。
	330	現代文B 改訂版 下巻	<ul style="list-style-type: none"> 各教材末の「学習のポイント」は、字数を指定してまとめたり、話し合ったり、発表したりする学習ができ、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの指導を相互に関連付けている。 各教材の後の「次の一冊」「ブックガイド」において、関連作品の読書へ導く工夫がされている。 「実用的な文章」として単元を設け、社会生活に関わる文章教材を配置している。また、近代以降の文語文など様々な文章を配置している。 上巻、下巻の別冊になっている。また、「評論の視点」「文学の視点」「キーワード解説」「学校系統図」という項目を設けている。
大修館	331	精選現代文B 新訂版	<ul style="list-style-type: none"> 「豊かな言語活動のために」を設け、主張や話し合いの技法、小論文の書き方に触れることで、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行うことができる。 教材の最後のページに「次の一冊」、単元の節目に「広がる読書」という項目を設け、同じ作者の書籍や単元のテーマに関連した図書を紹介している。 単元「近代の文章」にて「漫罵」「たけくらべ」を取り上げており、また「近代の文体」として明治期の作品を複数列挙し、近代以降の文体や表現の変遷に触れている。 「I」「II」の二部構成である。巻末付録として「キーワード解説」を掲載している。
大修館	332	新編現代文B 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> 各教材の末に「学習のポイント」を設けており、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 「読書の窓」の項目が設けられ、教材に関連した書籍を紹介している。巻末の「読書の広場」は、「読書の記録をつけよう」が配置され、「星の王子さま」「鉄道員」を収録している。 「社会生活と文章」、「言語活動」を配置し、実用的な文章を取り上げている。 「I」、「II」の二部構成である。単元ごとにねらいを明記している。
数研	333	改訂版 現代文B	<ul style="list-style-type: none"> 各教材末に「ことばと表現」という項目を設け、第一章末に表現編を独立して配すことで、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 単元末に「ズームアップ」という項目を設け、教材に関連した書籍の紹介や解説によって関心を喚起している。 表現編で「広告」「報告書」等の実用的な文章を取り上げ、近代以降の文語文など様々な文章を配置している。 第一章・第二章の二部構成に加え、表現編、資料編が付されている。
数研	334	新編 現代文B	<ul style="list-style-type: none"> 各教材末に「ことばと表現」という項目を設け、巻末に表現編を独立して配すことで、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 単元末に「ズームアップ」や「解説」という項目を設け、関連図書や作者の生涯などを紹介している。 「広告」「報告書」等の実用的な文章を取り上げ、「文学の扉」で近代以降の文語文を現代語を付けて紹介している。 第一章、第二章の二部構成に加え、表現編、資料編が付されている。

「別紙3」【(2)構成上の工夫】(現代文B)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
明治	335	新 精選現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・教材末にまとめる・話し合う・発表する等の指導を設け、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・表紙の見返しに代表的な作家について写真を配し、作品への関心を喚起するようにしている。 ・実用的な文章として「報道文」「判決文」「企画書」を取り上げている。近代以降の文語文を配置し、表現を味わえるような構成となっている。 ・単元末に「評論の窓」を配し、内容に関心を持たせるようにしている。前編・後編の二部構成になっている。
明治	336	新 高等学校現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・教材末の「研究」や「言葉の学習」、「小論文の書き方」、「創作への導き」を配置し、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・見返しに「日本近・現代文学史年表」や代表的な作家に関する視覚的資料を配することで、作品への関心を喚起するようにしている。 ・実用的な文章として「報道文」「判決文」「企画書」を取り上げたり、近代以降の文語文を配したりするなど、近代以降の様々な文章教材を扱っている。 ・前編・後編の二部構成になっている。また、「評論の窓」という項目を設定して評論教材のテーマに即した異なる文章を二編を配置している。
筑摩	337	精選現代文B 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・教材末に「表現」の項目を設けて、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・巻末に「近現代文学史」や代表的な作家に関連する視覚的資料を配することで、作品への関心を喚起するようにしている。「近現代文学史」では、年表に概説が付してある。 ・実用的な文章として「手紙」「報告」を取り上げている。また、翻訳小説を2編、近代以降の文語文については複数編配するなど、近代以降の様々な文章教材を扱っている。 ・第一部、第二部の二部構成になっている。評論教材末に「キーワード」を設けて思想に関する重要語彙を解説し、小説教材末のコラム「羅針盤」で作品周辺を紹介している。
筑摩	338	現代文B 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「表現」や「発展」を設けたり、「小論文の書き方」を配したりするなど、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・巻末に「近現代文学史」や代表的な作家に関連する視覚的資料を配することで、作品への関心を喚起するようにしている。「近現代文学史」では、年表に概説が付してある。 ・実用的な文章として「手紙」「報告」を取り上げている。また、翻訳小説を1編、近代以降の文語文については複数編配するなど、近代以降の様々な文章教材を扱っている。 ・第一部、第二部の二部構成になっている。各教材に「視点」を設けて学習目標を明確化している。評論に「キーワード」、小説・記録に「読解の窓」、その他、コラムを配置している。
第一	339	高等学校 改訂版 現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材の末に「言葉と表現」、各章に「言語活動」を配置することにより、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・「評論キーパーソン」「評論のしるべ」「文学のしるべ」「ブックガイド」の項目を配置し、採録作家と書籍の紹介を行っている。 ・「実用の文章」として単元を設けるとともに、近代以降の文語文など様々な文章を配置している。 ・第Ⅰ章、第Ⅱ章の二部構成になっている。「評論のしるべ」「文学のしるべ」が設けられ、評論や文学を読む上での理解を深められる構成になっている。
第一	340	高等学校 改訂版 標準現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材の後に「言葉と表現」の項目を設け、各章に「言語活動」を配置することにより、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・巻頭に「読書のしるべ」を配置し、採録作家と書籍の紹介を行っている。 ・「実用の文章」として単元を設けるとともに、近代以降の文語文など様々な文章を配置している。 ・第Ⅰ章、第Ⅱ章の二部構成になっている。随想・評論教材で、生徒にとって身近な題材を扱った親しみやすい作品を多く取り上げている。
桐原	341	新 探求現代文B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材の後に「読解」「表現」「発展」の項目を設け、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを相互に関連付けた指導を行う構成になっている。 ・巻末の「表現」では、「本を紹介する」「文学作品について調べて発表する」の項目を設定し、本の魅力や文学の深さについて学ぶことを喚起している。 ・近代以降の文語文をはじめとした、近代以降の様々な文章を配置している。 ・第Ⅰ部、第Ⅱ部の二部構成になっている。「評論の解析」「小説コラム」などの項目を設け、学習を深められる構成になっている。